注意！
■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報　第６号　野　菜

発行日　平成２３年　８月２５日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　中央農業改良普及センター　県域普及グループ　（電話　0197-68-4436）

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「http://i-agri.net」携帯電話からは「http://i-agri.net/agri/i/」

携帯電話用 QR コード

◆施設果菜類　草勢維持と障害果の発生防止
◆露地きゅうり　摘葉と病害防除の徹底、台風への備えも万全に
◆雨よけほうれんそう　適切な品種への切り替え、秋雨・台風への備えを万全に
◆露地葉茎根菜類　収穫率向上のための適切な管理と病害虫防除

１　生育概況

（１）トマトの雨よけ栽培は高温経過時に花落ちがみられたほか、その後の急激な気温の低下により裂果等の果実品質の低下もみられます。

（２）ピーマンは収穫ピークを迎え、成り疲れや気温の低下に伴い草勢が低下しているほ場がみられます。病害虫ではタバコガの発生が引き続き多くみられるほか、斑点病も散見されます。

（３）きゅうりの露地栽培では収穫ピークを過ぎたところですが、成り疲れや気温の低下により草勢が低下しているほ場がみられます。また、病害虫では褐斑病や炭そ病、べと病、うどんこ病の発生が広くみられ、ホモプシス根腐病も一部で散見されます。施設抑制栽培では苗の徒長も散見されましたが、生育は概ね順調です。

（４）雨よけほうれんそうは８月上中旬の高温による生育停滞がみられますが、土壌消毒や遮光を行っている圃場では概ね順調に生育しています。

（５）レタス、キャベツは、概ね順調な生育です。レタスでは腐敗性病害やオオタバコガの食害が一部にみられます。キャベツではアオムシの発生が多くなっています。

２　技術対策

（１）果菜類（トマト・ピーマン）

ア　施設果菜類

今後秋雨前線が活発になるとハウス内の湿度が上がりますので、十分な換気を行うことが重要です。また、病害虫の防除にはくん煙剤を使用する等、湿度を上げない工夫が必要です。

気温が低下してくることから、施設果菜類では夜間の保温が必要となります。最低気温がピーマンでは１７℃、トマトでは裂果軽減を考慮し１４℃の時期をめどに保温を開始します。

イ　雨よけトマト

裂果の発生を抑えるため、土壌水分の急激な変化を起こさないよう少量多回数のかん水管理とします。ハウス外からの雨水の横浸透にも留意し、ハウス周囲の明きょの点検整備をしましょう。また、早期白熟を防ぐため果実に直射日光が当たらないようにするとともに、最低気温が１４℃を下回るようになったら保温を行って下さい。

病害では今後、灰色かび病や葉かび病、疫病の発生が懸念されるので、これら病害に効果のある薬剤を選択し、防除に努めてください。高温期の萎れが多く発生したほ場では、次年度対策のためにきちんと診断を受けておきましょう。

本年は春先の低温や夏期の高温経過の影響から、例年より収量が少ないほ場もみられますが、少しでも収量を確保するために、収穫期間の延長も検討しましょう。最終摘心時期は収穫打ち切

りの日から逆算して決めますが、１０月末まで収穫する場合は、９月上旬頃が目安となります。開花花房の上の葉を２枚残して摘心すると、放任するよりも果実の肥大が良くなります。

ウ　ピーマン

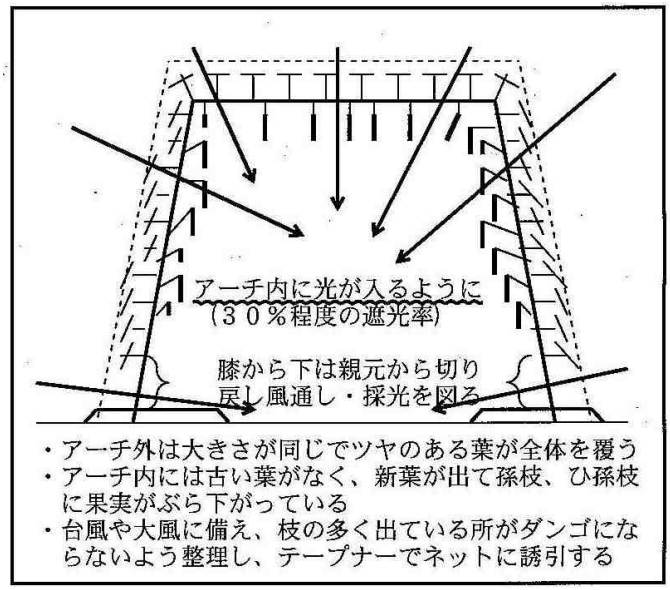
施設・露地とも尻腐果等高温による障害果の発生はおさまってくるものと思われますが、気温の低下とともに黒変果の発生が増えてきます。ハウス栽培では保温、換気を気象条件に応じて行い、適切な温度管理に努めてください。

病害虫では、降雨後に軟腐病の発生が多くなる時期となります。軟腐病の予防には降雨前後の薬剤散布が効果的です。特に、タバコガの食害痕など傷の付いた部分から病原菌が感染しますので、地域の予察情報等を参考にタバコガの防除もあわせて実施して下さい。

（２）露地きゅうり

草勢低下が著しいほ場では、不良果の摘果に努めて草勢回復を図るとともに、摘心はアーチの外側に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。

摘葉は、生育後半でも太陽光がアーチ内部に十分入り込み、新葉が常に発生するように右図を参考に行います。



さらに、草勢回復には液肥を薄い倍率で葉面散布することや土壌かん注も有効です。気温も徐々に低下しておりますので、追肥は速効性の資材を利用するようにします。

病害では褐斑病、炭そ病、べと病に効果のある薬剤を中心に選択し、古葉や病葉の摘葉作業と併せながら効果的な防除に努めます。特に、アーチの上部で病害がまん延しないよう丁寧な薬剤散布に努めてください。

（３）雨よけほうれんそう

秋まき作型に向けた品種切り替えの時期です。品種によっては、高温で徒長したり、気温の低下により生育が大幅に遅れる場合がありますので、各地域で示されている作付品種体系に従い、適期に適切な品種を播種しましょう。

萎ちょう病等の土壌病害が多くみられたほ場では、次年度の対策として土壌消毒を実施しましょう。初夏に土壌消毒する従来の方法以外に、作付終了後の晩秋に土壌消毒を行う方法もあります。具体的な方法については、最寄りの農業改良普及センター等にご相談下さい。

気温の低下や秋雨の影響でハウスを閉める時間が長くなると、べと病の発生がみられることもあります。抵抗性品種を利用している場合であっても、日中は積極的に換気して病害が発生しにくい環境にしましょう。

台風の影響を受けやすい時期になります。屋根ビニールが破損したり、ハウス内に雨水が流入するのを防止するためビニールの破れの補修、ハウス周りの排水対策を再度確認します。

（４）露地葉菜類

ア　ねぎ

生育は順調で概ね計画通りに収穫が行われています。最終土寄せをした後の日数が長くなると葉鞘部のしまりが悪くなる等して品質が低下します。収穫の２０～３０日前を目安に最

終培土を行いましょう。

ネギアザミウマ、ネギハモグリバエや黒斑病、べと病、軟腐病の発生が見られます。収穫が近くなってからの病害虫被害は品質の低下に直結しますので、早めの防除を心がけましょう。なお、農薬の使用にあたっては収穫前日数を確認して適切に防除しましょう。

イ　キャベツ・レタス

高冷地の定植作業はほぼ終了しています。今後は収穫率が向上するように生育中の栽培管理をしっかり行い、適期収穫により収穫率の向上を目指しましょう。

まとまった降雨により腐敗性の病害も多くなっていますので、ほ場排水を確認し、降雨後の防除が円滑に行えるようにしましょう。また、収穫終了後の廃棄株や残渣は放置せず、病害虫の発生源とならないように注意しましょう。

ウ　アスパラガス

普通栽培および立茎栽培のアスパラガスは、地上の茎葉部に存在している養分が地下部へ徐々に移行する時期となります。これからの追肥は養分転流の妨げになりますので行いません。株養成には茎葉部を健全に保つことが重要ですので倒伏防止対策をしている場合には、台風などに備えてもう一度ネットや誘引線の確認を行いましょう。

伏せ込み促成アスパラガスの株養成においても、茎葉部を健全に保つことが収量向上につながります。病害を防除し、倒伏させずに自然に茎葉が黄化するように心がけましょう。

フラワーネットを利用して倒伏防止しているほ場の例

農作物技術情報第7号は9月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
※　発行時点での最新情報に基づき作成しております。
※　発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。